

連載企画

# 教材活用 講座

第2回

## ワークブックと単元プリントで 基礎学力の確認と定着を

この連載では、全国各地の中学校でお聞きした、補助教材を活用しながら、生徒のみなさんの学力向上に向けて工夫されている取り組みをご紹介します。

第2回目となる今回は、ワークブック・単元プリント（白プリント）といった、授業中の問題演習や予習・復習の課題、形成的な評価のために使用されている教材について、全国の先生方にお話をうかがいました。それぞれの教材に対する使用目的や、先生方独自で工夫されている効果的な使用方法をご紹介します。

実践1

ワークブックで学びの土台作り

実践2

単元プリントで形成的評価





新しい学習指導要領の中学国語科では、育成を指すべき資質・能力が「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と規定されました。国語で正確に理解し、適切に表現するには、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域における「思考力、判断力、表現力等」とともに、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する「知識及び技能」も必要です。

ワークブックでは、本誌で主に「読むこと」「書くこと」、付属の聞き取り問題(CD)で「話すこと・聞くこと」における「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を養うことができます。今後、授業で「主体的・対話的で深い学び」を取り入れるにあたって、基礎・基本を定着させるツールとして、ワークブックの活用が重要になってくると思われまます。

使用実態調査・活用事例紹介 対象教材

▲新学社「新・基礎の学習」

内容

- 本誌
- 解説・解答集
- 別冊「ステップアップ式古典」
- 教師用 DVD-ROM/CD
- 聞き取り問題
- 有料オプション教材…ドリル



新しい中学校社会科の学習指導要領では、「基本的・基本的な『知識及び技能』の確実な習得」、「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成が資質・能力の三つの柱のうちの一つとして示されています。

「知識及び技能」の確実な習得や「思考力、判断力、表現力等」の育成は、ワークブックという教材の主な使用目的とも重なります。新学習指導要領の実施も見すえながら、工夫してワークブックを活用されている先生方の思いやその活用方法について、紹介させていただきます。

使用実態調査・活用事例紹介 対象教材

▲新学社「社会の自主学习」

内容

- 本誌
- 解説・解答集
- 教師用 DVD-ROM (CD-ROM)※
- 有料オプション教材・付属ノート
- ミニプリント※
- (※は育鵬社版除く)

### 使用実態・活用事例

#### ① 生徒の学力向上のために

ワークブックの使用場面は、「家庭学習中心」「授業＋家庭学習」がほぼ半々です。ただし、「家庭学習中心」の先生でも、「資料」や「文法問題」は授業で扱うという方が多くいらっしゃいました。家庭学習のみの使用の場合でも、ワークと同一・類似の問題を定期テストで出題するなど、指導と評価の一環にワークを取り入れていらっしゃいます。

#### (1) 授業での使用

授業の導入で「漢字・語句」の「コーナー」をさせている。(宮城)

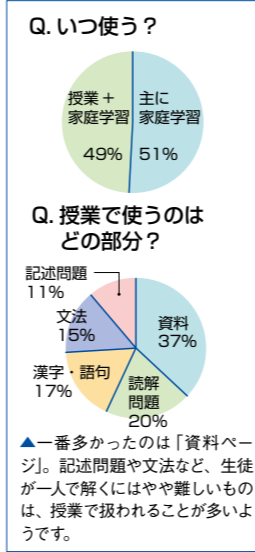
生徒の興味を引くために、授業の導入で資料ページを使う。特に戦争の単元は必ず見せる。(北海道)

読解の主要な問題を授業中に解かせ、内容の理解度を確かめている。(愛知)

基本的には家庭学習だが、まとめとなるような記述問題は授業で扱う。授業中に何問か扱って埋めておくことで、家庭学習時の抵抗感が減らせる。(新潟)

記述問題は書けない生徒もいるので、授業中に書き方や考え方を教え、家では書くだけの状態にしている。(福井)

文法については授業の中で取り上げ、答えまで確認する。(茨城)



### 使用実態・活用事例

#### ① 生徒の学力向上のために

予習または授業中に、教科書を見てワークを解かせる。ワークの解答語句は、教科書に線を引いて強調するよう指示。そうすれば、教科書がマイ参考書になると伝えている。(北海道)

付属ノートにワークの基本問題(1年表で確認など)を予習で解かせ、他の問題は授業後の復習として宿題に出す。「資料から考えよう」の一部を授業の最後に解かせることも。(福島)

教科書見開き1単元ごとに、授業の最後か宿題でワークを1大問解かせる。次の授業の最初に答え合わせをする。(北海道)

今年度から「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を始めた。ワークはその前段階の知識・技能のおさえとして活用している。1単元ごとに宿題にし、都度回収している。(北海道)

授業ごとにノートにやらせて、定期テスト前に本誌にやらせて、それぞれ点検・回収。(福島)

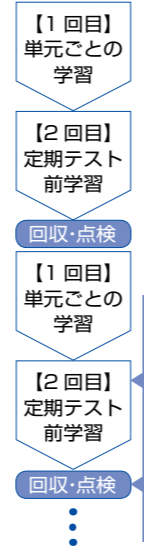
ワークは単元ごとに宿題で出して、回収・点検は定期テストごとに行っている。(広島)

週末課題にして、1～2週間一度、回収・点検を行っている。(宮城)

ワークは授業ごとの宿題にして、単元ごとにプリントを宿題にしている。(福井)

ワークは授業ごとに宿題にして、プリントはテスト前勉強として解かせている。(福岡)

#### (2) 授業ごと・単元ごとの使用



#### (2) 家庭学習での使用

最初の読み取り部分を予習で解かせて、残りの読解問題は授業後の家庭学習にしている。(福島)

ワーク専用のノートを作らせて、1回目はそのノートにさせている。最低2回はくり返して解くように指導している。(新潟)

わからなかった問題は色ペンで写して、後で復習するよう指導。そうすると、点検時に生徒がどこを丸写したか把握できる。また、オレンジのペンを使うと、赤シートで隠せてよい。(広島)

#### (3) 定期テストと連動した使用

定期テストには、ワークから漢字は20問、読解問題も3問程度を出題する。読解問題は、授業でやったことに合う問題を選んで出題する。(三重)

テストにはワークの記号問題を記述問題に変えるなどして類題を出題している。(愛知)

#### ② 時間の削減・効率化のために

ワークをテスト前に提出させているが、巻末の検印欄付きとびだすしおりがとても便利。(埼玉)

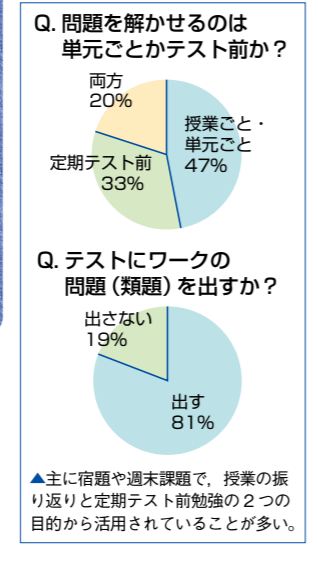
「新・基礎の学習」は巻末に検印欄付きのしおりがついているので、学習したページにしおりをはさんで提出させることができます。

付属の「聞き取り問題」は定期テスト前に実施し、評価の対象にしている。10分以内で実施できる。(福岡)

別冊の「ステップアップ式古典」は、復習に使っている。プリントを自作する手間が省ける。(広島)

★「新・基礎の学習」は歴史的仮名遣いや返り点の練習ができる「ステップアップ式古典」を別冊でご提供。別冊なので実施したいタイミングで配付したり、それだけを回収したり、と使用場面が広がります。

#### ② 時間の削減・効率化のために



定期テストでワークの類題を出している。図版が加工できるようになったことで、テスト問題の作成が格段にやりやすくなった。時差の図版データは授業中に拡大表示して授業でも使っている。(東京)

定期テストではワークの同一問題は出さず、類似問題にしているため、図版加工機能は助かる。(東京)

★「社会の自主学习」の本誌掲載図版は、全点モノクロにした上で、文字打ち換え等の加工可能な形式に、DVD-ROM(CD-ROM)に収録しています。

## ③ ワークブックで 学びの土台作り 数学

新しい中学校数学科の学習指導要領では、改訂のための基本的な柱が、「基礎的・基本的な『知識及び技能』の確実な習得」「知識及び技能を活用して問題を解決するために必要な数学的な『思考力、判断力、表現力等』の育成」「数学のよさを実感して粘り強く考え、生活や学習に生かしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度の育成」の3つに集約されました。

「知識及び技能」の確実な習得や「思考力、判断力、表現力等」の育成は、ワークブックという教材の主な使用目的とも重なります。活用されている先生方の思いやその活用方法について、紹介させていただきます。

### 使用実態調査・活用事例紹介 対象教材



#### ▲新学社「数学の問題ノート」

- 内容
- 本誌
  - 解説・解答集
  - 教師用 DVD-ROM
  - 有料オプション教材・ドリルほか (啓林・東書のみ)

## ④ ワークブックで 学びの土台作り 理科

新しい中学校理科の学習指導要領や、移行措置期間での学習内容の大幅再編に対し、1冊の本の形で提供されるワークブックは、学年内容を通しての把握に最適な教材です。

また、新しい指導要領の中学校理科の基本的な柱となる「基礎的・基本的な『知識及び技能』の確実な習得」「理科的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成は、ワークブックという教材の主な使用目的とも重なります。活用されている先生方の思いやその活用方法について紹介させていただきます。

### 使用実態調査・活用事例紹介 対象教材



#### ▲新学社「理科の自主学习」

- 内容
- 本誌
  - 解説・解答集
  - 別冊「作図計算トレーニング」
  - 教師用 CD-ROM
  - 有料オプション教材・付属ノートほか

## 使用実態・活用事例

### ① 生徒の学力向上のために 主な使用の流れ

#### 授業

**【導入】**  
ウォームアップや前時の復習として、基本問題に3～5分取り組ませる。

**【問題練習】**  
教科書の練習問題では足りないとき、問題を指示して取り組ませる。  
発展問題に全員で取り組み、解説。

#### 家庭学習

**【宿題】**  
授業の進度に合わせて取り組ませる。(授業ごとに宿題にする)  
提出期日を設けて課題にする。

**【テスト前の復習】**  
定期テスト範囲に合わせて取り組ませる。  
一度宿題で取り組ませた問題に再度取り組ませる。

### ② 使用事例

- ・授業中に教科書の練習問題をやらせて、早くできた生徒や時間が余ったときにワークをさせる。(北海道)
- ・生徒が一人で取り組むのが少し難しい問題や、定期テストによく出題する問題を授業で取り上げ、解説する。(三重)
- ・基本的には家庭学習用だが、テスト前には授業内で30分程度ワークに取り組ませることもある。普段はノートに学習し、テスト前にワークに書き込むよう指導している。(新潟)

授業で使うページ数の少ないワーク(計算中心)と、宿題にする標準的な分量のワークの2冊を使用している。(群馬)

### ③ 回収・点検

- ・毎回の授業後に宿題で取り組ませ、次の授業の最初に机上に置かせて、点検印を押す。(福島)
- ・授業の最後に演習として毎時間ワークを使用。できなかった問題は宿題にし、次の時間の授業中にチェックする。(広島)
- ・答え合わせしたものを毎週点検し、提出物の評価に組み込んでいる。(岡山)
- ・定期テスト前や夏休み明けに回収して点検する。間違った問題の書き直しをしているかなどを評価する。(広島)

### ④ 指導の工夫

- ・丸付けをしていて間違えた問題があった場合、計算問題については解答を丸写しするのではなく、消して書き直しをするよう指導。(福井)
- ・別のノートにやってきたり、オレンジペンで書き込んで赤シートで隠せるようにしたり、解けない問題を大きく困らざり、生徒自身で工夫して取り組ませている。(埼玉)
- ・解答解説を最初から全部渡しており、分からない問題は解き方を見ながら取り組んでよいとしているが、解説を見ながら書いたところは赤字で書くように指導している。(群馬)
- ②時間の削減・効率化のために  
定期テストにワークの類題を2割程度出題する。教師用DVDの図版データを定期テスト作成時に活用している。(三重)
- ・図形などの問題で、問題の図を投影して生徒に見せ、説明しながら取り組ませている。(北海道)
- ★「数学の問題ノート」の本誌掲載図版は、全点、DVD-ROMに収録しています。

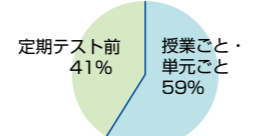
## 使用実態・活用事例

### ① 生徒の学力向上のために 主な使用の流れ

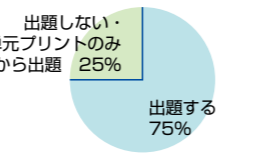
- ① 生徒の学力向上のために  
主な使用の流れ
- (1) 主な使用の流れ  
家庭学習での使用が主ですが、授業の最後やすきま時間に復習としても使用されています。  
宿題は中単元ごと・小単元ごとに実施されることも多く、その回収・点検は定期テスト前後にまとめるタイミングが多くなっています。
- (2) ワーク本誌以外の併用  
付属ノートの使用率が他教科と比べて高く、こまめな回収・点検や、本誌に直接書き込むこととあわせてのくりかえし学習に活用されています。  
単元プリントとの併用率も他教科と比べて高く、一方を単元ごとの課題、他方を定期テスト前の課題のように、組み合わせ活用されています。
- (3) ワーク活用事例の詳細  
授業の最後5～10分程度で復習。残りは課題。単元プリントをテスト前の課題として実施。(福井)  
授業の初め5～10分で確認。初めにノートにさせ、後で本誌にさせる。(愛知)

- ・毎日の宿題として利用。点検は定期テストごとと、きちんと自分で解いているか、答え合わせはできているか、を見る。(広島)
- ・家庭学習中心の使用だが、授業中にやや難しい問題や重要な問題に取り組むこともある。回収・点検は付属ノートを活用し、学期に4～5回実施。(三重)
- ・ワークは定期テスト前の復習用。(埼玉)
- ・要点のまとめ問題は、理科が苦手な生徒に「これだけは覚えて」とテスト前に取り組ませている。(京都)
- ・宿題で、解答は配っているが、出来が悪いところを解説している。特に1分野。(京都)

Q. 問題を解かせるのは、単元ごとかテスト前か?



Q. テストにワークの問題(類題)を出題するか?



▲定期テスト前までに勉強したワークや単元プリントから、何らかの形で類題が出されることが多い。

・別冊「作図計算トレーニング」は学校で保管し、使った際に配付する。使用場面は自学自習の時間。別冊であるため使い勝手がよい。(三重)
- ・別冊「作図計算トレーニング」は、夏休み課題の一つとしても丁度よかった。(広島)
- ★「理科の自主学习」では、作図計算特集を別冊で提供。別冊にすることで、作図の描きやすさや、教材使用場面の選択性を高めています。

### ② 時間の削減・効率化のために

- ・定期テストにはワークの図を使う程度で、同じ問題は出題しない。(福島)
- ・ワークから2～3割、同じ問題や改題を定期テストに出題。(新潟)
- ・テストでは、ワークの同一問題をサービズ問題として出題。他が自作の難しい問題なので。(広島)
- ・パワーポイントを使って授業をしているので、CDの図のデータをその素材として活用している。(岡山)

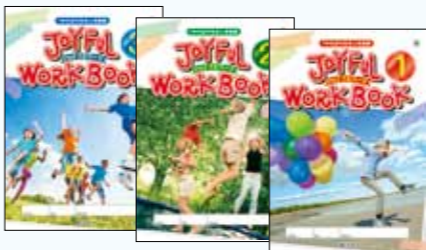
★「理科の自主学习」の本誌掲載図版は、全点モノクロ・文字打ち換え等の加工可能な形式にし、CD-ROMに収録しています。

# ⑤ 英語



グローバル化が急速に進展する中、国際共通語である英語力の向上に向けて、英語教育は大きな改革が進んでいます。小学校では、外国語活動が3年から実施され、5、6年が教科としての学習となりま。また中学校では、英語で授業を行ったり、学習言葉の大幅増、高校内容の一部前倒しなどが実施されます。「聞く」「読む」「話す」「やり取り」「話す」「発表」「書く」の5領域をバランスよく指導することが求められていますが、英語力の基本となる文法や語彙、表現を確実に習得するために、教科書だけでなく、ワークを活用し、英語力の土台を強固にすることが今後ますます重要となります。

## 使用実態調査・活用事例紹介 対象教材



▲新学社「ジョイフルワーク」

### 内容

- 本誌
- 解説・解答集
- 別冊「語順トレーニング」
- 教師用 CD-ROM
- 有料オプション教材
- リスニングテスト
- 付属ノート
- (東・開・三・学のみ) ほか

## 使用実態・活用事例

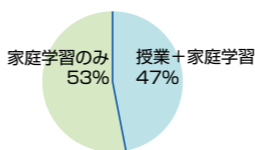
### ① 生徒の学力向上のために

家庭学習での使用が主ですが、授業でも、冒頭の文法解説や、その後にある基本問題を扱うという先生も多いです。家庭学習のみの使用の場合でも、ワークと同一・類似の問題を定期テストで出題するなど、指導と評価の一環にワークを取り入れることができます。

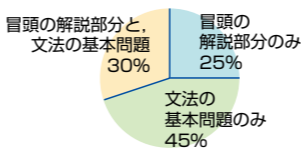
#### (1) 授業での使用

- ・新出文法導入時に、基本文の解説を確認。教科書よりも詳しくまとめられている。(三重)
- ・全員で取り組める基本問題を解かせる。(福岡)
- ・家庭学習では解きにくい自己表現問題に取り組みさせて、机間巡視で添削している。(北海道)
- ・授業の最後の5分間で取り組む。英文を声に出して読ませながら問題を解かせる。(広島)
- ・家庭学習としてワークの問題を解かせ、授業の最後に答え合わせの時間を取っている。(広島)
- ・授業の最後に10分程度の時間で基本問題を解かせ、マルつけまでさせる。ページ数も多いので、授業でもワークの時間を取るようにしている。(三重)

### Q. いつ使う？



### Q. 授業で使うのはどの部分？



▲授業でワークを使う場合は、ほとんどの先生が、冒頭の解説や基本問題など文法の導入時に使用。

### (2) 家庭学習での使用

- ・単元ごとに宿題で使用。テスト前に回収・点検している。(愛知)
- ・テスト前の宿題として使用。強制はしていないが、3回やるように指導。(1〜2回目はノートに、3回目はワーク本誌に書き込む)(新潟)

#### (3) 定期テストと運動した使用

- ・授業では使わず、テスト前に集中してさせる。定期テスト問題もワークから一部出す。語順トレーニングの問題はよく使う。(埼玉)
- ・定期テストにもワークからの問題を必ず出す。改題することもそのまま出すこともある。長文は選択問題を記述問題にするなど、多少ワークより難しく出している。(千葉)
- ・B問題は宿題だが、テストではワークの「自己表現」と同じ問題を出す。(愛知)

### ② 時間の削減・効率化のために

- ・CD-ROM収録の単語プリント作成ツールは重宝している。授業中・宿題の両方で使う。(宮城)
- ・まとめテストにある長文問題はよく定期テストの素材として使う。教科書と異なるが同テーマの文章で、初見の文章よりは見覚えがあるので、定期テストに出題するには最適。(北海道)
- ★「ジョイフルワーク」には単元末にまとめテスト、随所に長文問題特集、また教師用CD-ROMにワーク本誌とは異なる長文問題データ集があり、使える長文問題が豊富です。
- ・スピーチテスト実施の際の待ち時間に使用させる。課題を用意する手間が省ける。(京都)
- ・読み物特集がよい。授業で開かせて資料として使うこともある。(千葉)

## 単元プリントラインナップ(※新学社)

	タイプ1【単元の確認向け】	タイプ2【観点別評価向け】
書名	学習の達成	Wプリント
発刊教科	国語/社会/数学/理科/英語/音楽/保体 (教科書準拠版)	国語(新刊)/社会※/数学※/理科/英語 (※は標準版のみ)
判型	A4判	A4判
回数[枚数]	多い (国語=16~18回/地理=10~12回/歴史=8~14回/公民=16回/数学=16回/理科=20~24回/英語=16回/音楽=8回/保体=16回)	少ない (国語=12回/社会=10~12回/数学=10回/理科=12回/英語=8~12回)
特長	・教科書に合わせて、基本問題(オモテ面)~応用発展(ウラ面)まで単元内容をバランスよく出題。 ・カラーで取り組みやすい。 ・(基本的には5点・10点の)均一配点で採点しやすい。 ・手引きの解説が詳しく、補充問題も充実。	・指導と評価を一体化させる1単元2枚のプリント構成(評価プリント+確認プリント)。 ・全教科1大問1観点。観点別評価がしやすい。関心・意欲・態度の問題もあり。 ・手引きは生徒の自己採点がしやすく、自己評価もできる。

# 単元プリントで 形成的評価

単元プリント(白プリント)は、「1単元1枚。その都度配付できる」という扱いやすい形態のため、評価テストや単元終了時の確認、定期テスト前の復習、さらには急な自習時間用の教材としてなど、さまざまな用途で活用されています。

この単元プリントを年間の指導の中にも組み込み、生徒の学力向上に役立てている先生方も大勢いらっしゃいます。

指導計画作成時のご参考に、全国の先生方が実際に単元プリントをどのように活用されているか、使用事例をご紹介します。



## ワークとの違い

### ワーク

単元を細かく区切り、基本事項の定着を図る問題を中心に、作業問題や穴埋め問題など、テストに出にくい問題も含め、多くの問題に取り組みます。

### 単元プリント

1単元の内容を1枚のテスト形式に凝縮しています。問題文も解答様式も、実際のテストにより近くなっています。

## ワークと単元プリントの併用事例

### 併用事例1 使用するタイミングで使い分け

- ・ワークは授業ごとの復習として、授業の終わりに家庭学習で使用。
- ・単元プリントは、1単元が終わった後や定期テスト前の課題として使用。

### 併用事例2 冊子形式・プリント形式の特性で使い分け

- ・ワークは学校には持ってこさせずに、家庭学習で使用。
- ・単元プリントは都度配付しやすいので、授業中に使用。

### 併用事例3 使用する目的で使い分け

- ・ワークは教科書内容の確認や授業の復習として使用。
- ・単元プリントは単元テストとして使用し、評価にも入れる。

単元プリントは、自習課題としても使っています。  
(新潟県・N先生)



# 単元プリント 活用術

## 「学習の達成」編

単元プリントの中でも、各社から発行されていて、多くの学校で採用されているのが、「カラー版」年間12～20枚程度「オモテが基本問題、ウラが発展問題」というタイプです。(新学社では「学習の達成」を発行。)

単元プリントの主流であるこの教材について、全国の先生方にお聞きした、選りすぐりの活用術をご紹介します。

### 活用術1 実施時間

1枚(1回)の実施時間は20分～30分程度です。1単位時間の授業で、問題をさせるだけなら2枚、答え合わせをして、間違えやすい問題の解説までするなら1枚配付して学習させるケースが多いようです。1枚だけ使う場合は、前後に別の学習をさせることもできます。

- 半分は授業中に使う。実施時間は15分。解けなかった問題は宿題にする。(福井県 社会・H先生)
- 定期テスト前のふり返りの時間に使う。テスト範囲を単元プリント3～4枚分に合わせる。ふり返りの時間の1時間ごとに1枚配付する。プリント以外の学習もさせる。(青森県 理科・K先生)

英語は、別売のリスニングテストを最初の15分で実施し、あとの問題を30分で解かせます。



# 単元プリント 活用術

## 「Wプリント」編

新学社では、指導と評価の一体化を目指し、観点別評価のできる単元プリントとして、平成28年度から「Wプリント」という教材を発行しています。A4判の「評価プリント」とB5判の「確認プリント」を組み合わせた教材です。「評価プリント」を単元テストとして実施する前後に、「確認プリント」を学習または復習として使用することを想定した教材ですが、実際は、先生方の授業スタイルに合わせてさまざまなパターンでお使いいただいています。ここでは岡山市でお聞きした使用事例をご紹介します。

### 教材の内容



A4判両面8～12回。1大問1観点で「知識・理解」から「関心・意欲・態度」まで全観点を網羅。標準実施時間30分。



B5判両面。「評価プリント」と同じ範囲で同じ回数、同一または類似問題で構成。1大問1観点で「関心・意欲・態度」以外の問題を出題。標準実施時間10分。

### 教師用 CD 「確認プリント」 「評価プリント」



教師用資料や、観点別集計ソフト、補充プリント、図版データ等を収録。(社会のみDVD)

### 活用術2 答え合わせ

宿題にする場合は、次の授業で解説・解答を配って答え合わせする。問題をピックアップして補足説明をする。(福井県 社会・H先生)

● 答え合わせは生徒のグループ内で行い、得意な生徒が苦手な生徒に教えている。(三重県 理科・O先生)

● 答え合わせは、授業中にとり同士でさせる。(群馬県 理科・T先生)

● 答え合わせは、口頭で答えを言ったり、「一つ確認しながら行います。そのあとで解説・解答を配付します。」

● 時間があるときは生徒に答えを言わせることもあります。



### 活用術3 定期テストへの出題

● 勉強した生徒がある程度解けるように、また一度勉強したことが定着しているか確認するため、ワークと単元プリントの内容を少しずつ定期テストで出題します。全体の問題数の1～2割程度。(石川県 社会・M先生)

● 問題形式を変えたり、ヒントの語句を取るなどして、難易度を上げて出題する。定期テストは2回目なので、少し難しくしたい。(福井県 社会・H先生)

● 単元プリントの問題を定期テストに出題することは、1年生には勉強の仕方を教える意味もあります。授業の後、きちんとプリントの問題をやることで定期テストでいい点をとれる、ということを実感させます。1年生の最初は、定期テストの全問題をワークと単元プリントから出題し、2年生では3割～4割、3年生では1割～2割くらい出題します。



単元名	教科書の範囲	ワークの範囲	単元テスト(「評価プリント」)の実施日の欄がある。	
1	物質の構成	12～31	2～7	月 日
2	物質の性質と変化	32～58	8～19	月 日
3	化学変化と物質の生成	59～75	20～35	月 日
2. 動物の生活と生物の繁殖				
4	動物の生活	86～95	36～37	月 日
5	動物のからだのつくりと働き(1)	96～107	38～41	月 日
6	動物のからだのつくりと働き(2)	108～124	42～51	月 日
7	動物の生活と繁殖	125～141	52～65	月 日
3. 天然資源の活用				
8	資源の活用と環境	156～173	66～77	月 日
9	資源の活用と環境(2)	174～203	78～95	月 日
4. 電気の世界				
10	電気の発見と電気の活用(1)	214～237	96～103	月 日
11	電気の活用(2)	238～247	104～117	月 日
12	電気の活用	248～265	118～136	月 日

① あらかじめ、年間の学習予定を生徒に配付。「確認プリント」を学習に、「評価プリント」を単元テストとして実施。

- ② スケジュールにそって、単元テストに向け、ワークや「確認プリント」で各自勉強しておくように指導する。
- ③ 「評価プリント」による単元テストを、授業中に30～40分で実施。
- ④ 先生が採点し、観点ごとの得点を集計表に入力してから返却する。
- ⑤ 単元テストのタイミングで、ワークやファイル点検も行つ。



### 活用術4 様々な活用場面

「単元終了時」「定期テスト前の復習時間」「急な自習時間」以外にも様々な場面で活用されています。1年間で使い切れない場合、残ったら次の学年の最初に取り組ませます。年度の最初は教科書に入らず、前学年の復習をするようにしているのが便利です。



### 活用術5 回収・点検・評価

● 全部解答を埋めるまでは受け取らない。オモテ面は、関心をはかるものとして、ウラ面は「書く」観点の評価に活用している。(鹿児島県 国語・T先生)

● 回収・点検する。丸つけているか、ファイルリングしているか、間違った問題を訂正しているか、解説・解答の補充問題までしているかをチェックして、評価に加味している。(富山県 理科・Y先生)

● 回収・点検して評価に組み入れる。エクセル表で、観点別に点数を記録する。(福井県 国語・T先生)

● 回収・点検・評価はしていません。定期テストに同一問題や類題を出すので、そこで生徒が理解できているかを確認しています。(富山県 理科・Y先生)



### 活用術6 指導の工夫

● 授業で使用するときにはオモテ面だけを生徒同士で相談しながら取り組ませ、交換して丸つけをさせる。(富山県 国語・N先生)

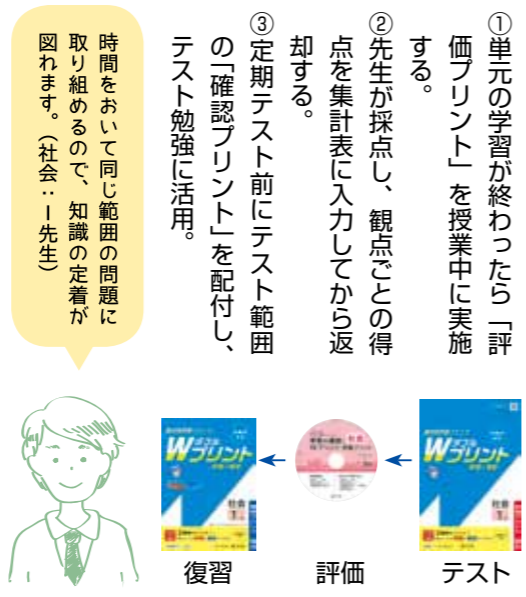
● 授業で実施する場合は1問ずつ全員で順番にやっていく。一人ひとり解かせる場合と、グループで解かせる場合がある。(福井県 数学・I先生)

● 回収・点検をし、間違った生徒の多い問題は授業で指導することもあります。



### 使用事例2

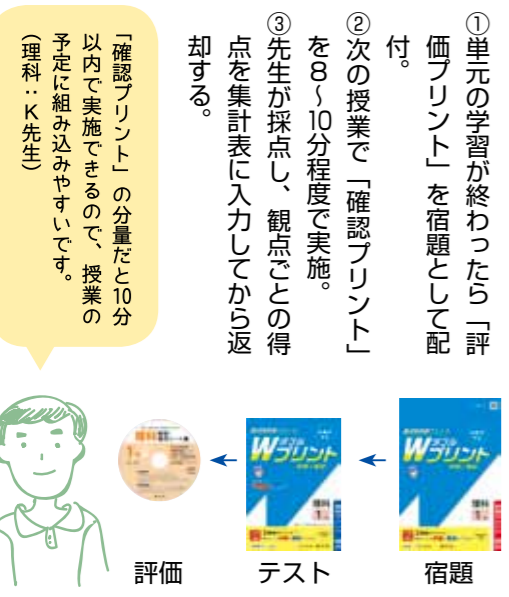
● 単元末に「評価プリント」を実施。定期テスト前に復習として「確認プリント」を宿題に。



● 時間をおいて同じ範囲の問題に取り組めるので、知識の定着が図れます。(社会・I先生)

### 使用事例3

● 単元末に「評価プリント」を宿題に、「確認プリント」を単元テストとして実施。



- ① 単元の学習が終わったら「評価プリント」を宿題として配付。
- ② 次の授業で「確認プリント」を8～10分程度で実施。
- ③ 先生が採点し、観点ごとの得点を集計表に入力してから返却する。

● 「確認プリント」の分量だと10分以内で実施できるので、授業の予定に組み込みやすいです。(理科・K先生)